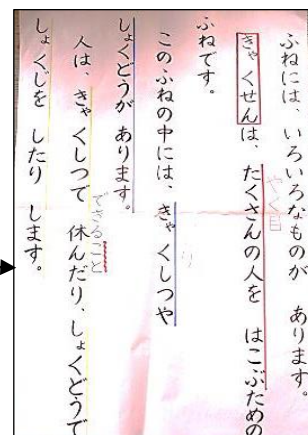


効果のあった実践事例

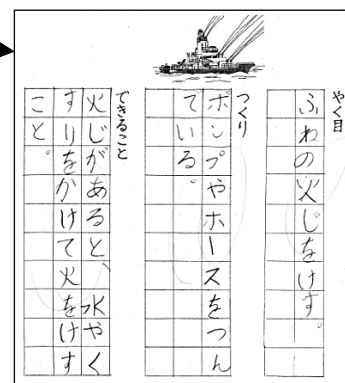
学年 第1学年	教科等 国語科
単元・内容 のりものずかんをつくろう「いろいろなふね」	
○ ねらい ・ 順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 ○ 手立て ・ 単元のはじめに乗り物図鑑の例を提示し、ゴールを明確化することで学習への意欲を高める。	
既習事項を掲示して、考えるためのキーワードを視覚化する。内容ごとに色分けして示し、考える視点を焦点化する。 1 キーワード「～は、～ためのふねです。」や教科書と同じ、分かち書きした文を掲示する。 2 「やく目」「つくり」「できること」をそれぞれ色分けして線を引かせ、役割ごとにワークシートに記述させる。 やく目→赤色 つくり→青色 できること→黄色 ワークシートは、マス目があるものを用意し、教科書をよく見て書くようにさせる。 3 役割にあった「つくり」や「できること」になっていることを確かめるようにする。	
○ 児童の変容 1 キーワードの掲示や色分けによる構成の視覚化により「やく目」「つくり」「できること」を読み取ることができた。 2 既習事項の掲示により、自分で事柄の順序を読み取ることができた。	
○ 実践者のコメント 既習事項の掲示を見ながら、「やく目」「つくり」「できること」にサイドラインを引いている児童がいたので、掲示物が有効であったと思う。フェリーボートに乗った経験を一次で話し合ったが、本時でも少し出させて、友達の経験を聞くことで、フェリーボートのイメージを捉えることができる児童が増えたのではないかと思います。ワークシートにマス目を用意したことで、文字の大きさに気を付けて、抵抗なく落ち着いて字を書くことができたと思う。	



のりもの図鑑



既習事項の掲示



ワークシート